

引きこもりの解消Y君の場合

平成21年9月26日記 平成30年10月16日修正

現在35歳の彼の相談を受けたのは、一昨年9月中旬のことでした。彼は地域では進学トップ高校を卒業、S大学に入学。ところが、大学入学1日目で人間関係で崩れ、大学に行かず下宿に籠もり、1年後退学に踏み切り、下宿を払って帰郷。その後もその状態が続き、精神科に通院。改善どころか益々鬱状態がひどくなり、転勤する当時の主治医と共に他県の病院に転院。その頃は発狂することもあり、彼曰く、鉄格子の病室で過ごすこともあった。しかし、やはり鉄格子の病室には強い抵抗があり、再び帰郷し、某クリニックに転院。薬による治療が続いた。多くの若者が長く通うそのクリニックでは、その世代の患者達で友の会を作り、お互いに支え合わせたり、その成果を学会で発表させたりしており、彼はその事務局的な立場で、その会の運営に携わられていた。その間、薬を絶つと症状は益々悪くなるとのその医師の指示から、8年ほど指示された薬の服用を続けた。

相談を受けた私は、その相談者の家でそばを打つことにして、彼を誘い出すようお願いした。9月30日(日)夕方、手打ちそばの材料と道具を持って相談者宅に行くと、既に彼はお母さんと来ていた。180cmを越す身長ながら猫背の体が彼を小さく見せた。「Y君、見てるのも何だから、一緒に打とう！」と言う私に、彼は大変な戸惑いを見せるも、相談者とお母さんさんから促されて、「うん」と返事をした。早速手を洗い、約40分で5人前のそばを打った。「こんなに長く練るんですか？」と聞かれ、「そう、まだまだ」と答える。時々汗をぬぐいながら視線を下に落とし、小刻みに頭を振る。初めてそばを打った。その後、4人でY君の打ったそばを頂いた。練りがちょっと甘かったが、おいしかった。彼も大満足で笑みを浮かべた。母親は20数年振りに彼の笑みを見たと言う。

「今度はセントレアのお風呂に入りに行こう！」と、私は彼を誘った。実は、翌10月の中旬当時交換留学生として来ていた4人のオーストラリアの高校生を、中部国際空港セントレアまで送っていくのを頼まれており、ついでに彼も誘ってセントレアのお風呂に入ろうと考えた。「せとのや(ゆらく=市営の温泉)のお風呂じゃあなくて、セントレアのお風呂だよ。」と、私は念押しした。彼は、私の有無を言わせない言い方に負け、仕方なく「うん」と答えた。

こうなったら彼と関われる機会を生かせば、彼の今の状況を改善できると、私は鼻息が荒くなった。ところが、その前々日、**市国際友好協会から電話があり、当日の交換留学生の帰りの航空チケットが取れず、次の日の航空チケ

ットが取れ、次の日では私が送れないだろうからと判断し、別の人に依頼したとのこと。こりゃ、あの冗談がホントになってしまった。即ち、セントレアのお風呂じゃなくて、せとのや（ゆらく）のお風呂になってしまった。当日、待ち合わせ場所に来た彼に「ゴメン。ちょっと事情があつて、ホントにせとのやのお風呂になっちゃった。行こう！」と言って彼を車に乗せ、ゆらくに向かった。後日彼が言うには、この時の私の言動には有無を言えず、言われるままに従ったと。彼とゆらくに入ってびっくり。彼は髪の毛を洗うこと10分、腕を洗うこと10分、背中を洗うこと10分・・・これでは湯に浸かって待つ私は茹で上がってしまう。私は強迫神経症を疑った。彼に一言言って、お先に失礼して広間で待った。かなりの時間が経った。髪の毛を拭きながら来た彼の顔は、なぜかすっきりしていた。「会ってたつた2回目で一緒にお風呂に行くなんて、自分もびっくりですよ。」と彼が言った。すかさず私は彼に、「23日の夜8時、リーダーと仲間達で***でカラオケするけど、来るね？**ちゃん（リーダーのちょっと可愛い女の子）も、君が来ることを楽しみにしてるから。」と伝えた。「えっ！**ちゃんも来るんですか。でも、僕、まだ行くとは言ってないんですけど・・・」「そう、でも、**ちゃんも、〇〇ちゃん（こちらは前から彼が知っている子で、年齢が彼に近いリーダーの女の子）も君が来ると思っているんだけど。君を我々（NPO静岡県教育フォーラム）のリーダーの仲間入りさせるために企画したんだけど、ダメかなあ〜。」実は、**ちゃんはこの日待ち合わせた場所で紹介したばかりNPO静岡県教育フォーラムのリーダーです。「彼女達がリーダーをしているフォーラムの活動を、君にも紹介したいから、是非来てよ〜。」と粘ると、彼は小さく「うん」と頷いた。

23日は久しぶりのスタッフカラオケ大会。参加者は、**ちゃんに20代、30代のリーダーで男2名、女1名、彼と、私の世代男女各1名と私。小さいスナックを貸し切つての大宴会に、最初は彼は戸惑うことばかり。しかし、**ちゃんや〇〇ちゃんの誘いに、ついつい一緒に歌い始めし、暫しマイクを独占することも。大変楽しい時が3時間ほど過ぎた11時頃、**ちゃんと〇〇ちゃんはお迎えが来て帰宅。

突然彼はこれまで押さえ込まれていた様々な感情が湧き上がり、時折怒号する激しいカウンセリングになった。夜中の1時に迎えに来た彼の母親を、「母さん、出て行ってくれと！」と激しく追い出した。その後彼は、私と同じ世代のスタッフの女性の胸に顔を埋め、私を父さんと呼び、幼児返りが始まり、彼の中に深く押し込まれていた様々な未処理の感情が次々に湧き上がってきた。その詳細はここでは申し上げられないが、私は彼の内なる世界＝素因を鮮明に見ることができた。私はその一つ一つを丁寧に処理し、彼の現在の症状の解消を試みた。全てが終わった時は、もう朝3時前だった。

日常生活を取り戻した彼は、その後Y市公民館から依頼を受けた当フォーラム主催の「理科実験教室」にリーダーとして参加し、約100人近くの子供たちと対応し、20数年振りに童心に帰った。